

# 京都部落問題 研究資料センター通信

第7号

発行日 2007年4月25日 (年4回発行) 編集・発行 京都部落問題研究資料センター

## 報告 部落史連続講座

### 京都の被差別部落と教育

第3回

戦時下京都の

被差別地区と救貧・風俗

講師 秋定嘉和さん

(京都部落問題研究資料センター所長)

報告 中島 智枝子

二〇〇六年度部落史連続講座第二期第三回目の講座は、一二月八日に当センターの秋定嘉和所長が「戦時下京都の被差別地区と救貧・風俗」と題して行なった。

今回の講座のテーマである教育については、『京都の部落史』の近代編で詳細に触れられているので、今日は救貧・風俗等を中心に話を展開したいと述べられた。

まず、自分をどのように捉えるかについて、天皇・土・農・工・商・賤という捉え方はマルクス主義の見方である。江戸時代の知識人たちもこの序列で記録を残している。この身分制が解放令以後崩れ、つまり旧身分をかくすことで特に戦後進んだ。近代は階級への

移動で旧身分の脱出を可能にしたが、この点をこの捉え方ではあまり考えてこなかった。近代の部落差別はこの問題を考えないと解けないのではないかと考えている。また、教育も階級移動の大きな要素であった。

戦時下に進められた融和事業一〇カ年計画(昭和一〇年から着手)であるが、この計画の原型が戦後の同和对策事業特別措置法とつながっているということが出来る。

これは昭和二〇年まで続き、予算措置は二二、二三年まで続いている。そこから二〇年くらいあいてから特別措置法体制が出てくる。

その間に、戦後革命 新憲法や農地改革が大きな意味を持つてくる。農地改革の結果、人口の流出入が起こり、農村から都市への流入が起こる。この農村からの流出というところと教育の問題であるが、戦前という中央融和事業協会と政府が教育奨励金を出し、ここで部落のエリートが輩出している。これらの人たちがその後どのように

なったか、部落の近代化を考える上で見逃せない点である。近代化、ブルジョアの解放を考えないと近代の部落問題はわからないと考える。

中央融和事業協会が農村を対象に行なった融和事業を通して部落の人口についても変化が見られる。これを機に農村と都市部落の回流が始まり、共同体の動揺ということが起きてくる。現在の都市部落では人口流出入が激しく、最近行われた大阪の調査では、大阪の同和地区では、大まかにいって出身者が三分の一、部落内外の通婚者が三分の一、一般の流入者が三分の一である。つまり、地区に三種類の住民が居住しているという実態が明らかにされた。

融和事業が進められる中で部落の衛生状態についても、銭湯が出来てからトラホームが減少してきている。とはいえ、トラホームの罹患率であるが部落は一般地区に比べ三、四倍高い。これは住環境とも絡んでくる問題である。集会場として地区の中で銭湯が果たしていた成果などが紹介された。

一八七四(明治七)年に出された恤救規則では対象は「鰥寡孤独」、身寄りのない高齢者と子どもに過ぎず、近代的救貧法としては不十

分なものであった。一九一八（大正七）年、京都や大阪で方面委員制度が始まり、生活困窮者の救済が行なわれるようになった。やがて、一九二九（昭和四）年に出された救護法でようやく貧困者への救済が行なわれるようになった。

部落問題に社会福祉を重ねて考える時、融和主義と見られてきた大阪の沼田嘉一郎の存在は見落とせない。沼田は貧困問題の解決を重視した。沼田は身分差別と階級的貧困をもとに考えたのか、階級重視だけなのかかわからないが、部落出身で国会議員になり貧困問題について熱心に取り組んできた。京都での救護法の実施状況についてはレジメの資料の事業成績からも重要な役割を果たしたといえる。最後に、戦前の京都の人権問題を考えるとき、部落問題をはずして考えることは出来ない。また、部落問題の他にも西陣の労働者の問題や「在日」の問題、芸娼妓の問題などがあり、これらの問題が突きつける重層的な差別の構造をどう解きほぐしていくかという問題がある。京都の問題を考えることが日本の人権状況を考える取っ掛かりになるのではないかと思う。

（京都部落問題研究資料センター運営委員）

## 京都府・市における

### 教育の機会均等への施策について（2）

#### 第三次小学校令以降を中心に

#### 白石正明

#### 二、就学補助の動き

一八九九（明治三二）年一〇月の府訓令一八四号にみられるように、就学率向上の方策として就学の猶予・免除条件の厳格化の方向をとっていた京都府が、一九〇〇年一月に、不就学者は主に貧苦のために就学が出来ないのだから「是等貧困者の子弟に対しては市町村費より補助を与へ、以て教育の普及を謀らん」とする方針をとることが報じられた（既述）。だが、不就学児童の就学条件整備という新たな視点の導入への道筋がどのように作られたのかを示す資料はない。しかも、短時間での新方針づくりは、府内での討議の結果というよりも、他の何かに影響されたものと考えられる。その他のものとは、小学校令改正を検討していた文部省の動きではなかったのか。その理由は次のとおりである。

樺山文相の下、小学校令改正を討議していた文部省は、一九〇〇年一月一五日、文部省議決決定案を閣議に提出した（注<sup>1</sup>）。改正案のなかで、就学督励策として、授業料廃止とともに次の三点が挙げられた。それらは、就学させる義務を果たさない学齢児童保護者への罰金、就学督責に関して（市町村官吏の職務の履行に際して）警察官吏に補助させること、そして、市町村費による就学補助である。そこには、「而シテ之（処罰や警察官の利用）白石注記）ト同時ニ学齢児童保護者就学ニ関スル費用ヲ支弁スルコト能ハサルモノニ、市町村費ヲ以テ補助スベキ制ヲ新設シ」（注<sup>2</sup>）とあった。

の小学校令改正の時点では条文から削除された。その曲折は注<sup>1</sup>の記述に明らかであり、本論でも後述するが、しかし、新しい小学校令の四月一日施行を目指して居た文部省が、一月の段階では就学補助を計画していたことがわかる。一月末に、京都府が従来の方針に加えて就学補助を打ち出したのは、このような文部省の方針が背景にあったと推測することが可能である。

就学補助の方針は、まず、一月、紀伊郡でその方法が決められた（注<sup>3</sup>）。紀伊郡の学齢就学督励の内容は、一〇項目にわたる。貧困の範囲は狭く解釈し、猶予・免除の適用を難しくすること、「即ち赤貧洗ふが如きもの、外は圧制的に督促すること、換言すれば公私の救助を受くるもの及び公税を免除せられたものを以て貧の程度とす」、二学年以下は本人病気又は父母病気の外は猶予を許さないこと。そして、就学補助の方策として、「三学年以上と雖も貧困窮者には学用品の貸与、衣服消耗品の贈与及授業料を免除する方法を設くる事」とした。三学年以上を対象とするこの条文は、中途退学防止対策といえるが、その書き方からして、

一、二学年生は当然この措置を受けることになるのであろう。

督促の方法として、教員、校長、学務委員による督促と郡長による召喚に加えて、「警官に依頼して巡回の途次及戸口調査の場合等に督促する事」とある。前にあつた「圧制的」な督促の内容である。

また、学籍簿の整備とともに、未就学者のための「特別教授」、夜学校、子守教育、半日学校の実行を掲げていた。

紀伊郡に続いて二月末、相楽郡も就学奨励として、「就学奨励金補助方法」と「学用品補助貸与準則」をまとめ、郡会の決議を経て四月一日から実施すると発表した(注4)。少々引用が長くなるが、具体的かつ詳細な規定を記しておくたい。

就学奨励金補助方法

第一条 就学奨励の為め別に定むる所の学用品補助貸与規定準則に基き規定を設けたる町村に限り此方法に拠り其町村尋常小学校出席生徒の総数を標準とし郡費より其費用を補助す  
第二条 補助金は毎年四月及十月の両度其前月迄の出席生徒

の平均数を調査し各一名に對し一度金五銭の割を以て之を給与す

第三条 補助金は貧民子弟の学用品補助貸与に關する費用の外之を使用するを得ず但貧民子弟の少なきにより剰余を生ずる時は学校基本財産に編入する事を得  
第四条 補助を受けたる町村に於ては前条同一の目的を以て少なくとも其金額と同額以上の支出をする事を要す  
第五条 此方法施行に關する細則は郡長之を定む

学用品補助貸与準則  
第一条 本郡町村尋常小学校の生徒中貧民の子弟ある時は左の區別に学用品を補助し又は之を貸与す

第一類 備附品  
一、教科用書 必要の時々  
一、硯 一人に付一面  
一、石盤 同 一枚  
一、算盤 同 一個  
一、裁縫器具 同 一組  
一、風呂敷 同 一枚  
以上の物品は之を貸与するものとす  
第二類 消耗品

一、墨 一人に付一学年一丁  
一、筆 同 大五本 小三本  
一、半紙 同 七帖  
一、草紙 同 二冊  
一、石筆 同 五本  
以上の物品は現品にて之を補助するものとす

第二条 学用品中破損等により使用に堪へざる時は更に其品に限り之を補助し又は貸与する事あるべし  
但し故意を以て破損したるものは相当の処分を為す事あるべし  
第三条 補助及貸与を受けたる学用品は他の生徒に貸与する事を許さず

相楽郡は、翌三月、上記の規則の施行細則ともいうべき「就学奨励規則」を作成、町村長、学校長、学務委員等に訓告した(注5)。就学奨励の具体的行動指針には、管理者である校長を中心としており、警察官への言及はない。就学猶予の判断は、校長もしくは主席教員と学務委員の協議、「学用品補助貸与規定に依り学用品の補助貸与を為すも到底就学せしむるの見込みなきもの」と認められた後、校長から郡長に伺い出て認可を受けるもの

とした。公的補助によつて、就学向上を図ろうという意図がみえるが、しかし、同時に、就学猶予規定として、病弱、「養育不十分」、貧窮、免除規定として「瘋癲白痴のもの」、「盲啞其他の不具者」と貧窮を挙げている。これらの規定は文部省案と同じであるが、相楽郡の場合は、貧窮程度を税負担の数値で示し、また規定免除対象に「官若しくは公私の救助を受くるもの」が子弟にして家事を補助するものが含まれている。一方で就学機會の提供の規定を作りつつ、その一方で、免除という名の下に、門戸を閉ざされた子どもを放置している様が見えよう。

この二郡のほかに、船井郡竹野村の例が記事となつている(注6)。同村では、「本年」から生徒給与金として六〇余円を支出、「貧困者にして其子弟を就学せしむるものに学童一人に付一元乃至一元五〇銭を給して学費を支弁せしむるの途を開きたるが為め、従来貧困者の子弟を就学せしむる能はざりし者も大に便宜を得、従つて着々多数の就学児童を見るに至りし由」とあるが、その詳細は不明である。就学補助に關する事例は、以上の三件だけしか現在のところ判明

していない。しかも、この三例も、その具体的な実施の消息は不明である。しかも、京都府自体は、就学補助の方針を具体化する動きを見せてはいない。その理由は、就学補助を含めていた一月の文部省案が四月には頓挫していくのと無関係ではない。就学費用補助は、

(以下、次号に続く)

注

(1) 国立教育研究所編『日本近代教育百年史』第四卷(国立教育研究所、一九七四年)八五七―八七七頁。

(2) 国立公文書館所蔵『公文類聚』第二十四編 卷二十三 学事門 小学校(八箇亮仁、明治三三年小学校令の諸問題)、『常盤会短期大学紀要』6、一九七八年三月に所収)。

(3) 『京都日出新聞』明治三三年二月八日。

(4) 『京都日出新聞』明治三三年二月二日。

(5) 『京都日出新聞』明治三三年三月七日。

(6) 『京都日出新聞』明治三三年二月二四日。

(7) 前掲『日本近代教育百年史』八五九―八六〇頁。

(8) 京都府都視学会での本荘府視学官の訓示(『京都日出新聞』明治三三年五月一八日)。

(京都部落問題研究資料センター運営委員)

文部省案が、そして、京都府が就学補助の方針を取り下げていった理由は、地方財政の負担過重の問題であった。新学校令で明文化されていた「(授業料無償を柱とした)就学の督励」「学校設備の完成」「教員の補充」は、三三年の時点で急に新たに課せられたものではない。京都府においては、例えば学校設備への取り組みは前年よりなされていたが、しかし、実際に三つの方針がまとめて課せられ、「小学教育の施設上尤重要なもの」(注)とされるとき、その実現は容易ではなかった。就学補

本の紹介

藤野 豊著 (大月書店、二〇〇六年)

『忘れられた地域史を歩く』

近現代日本における差別の諸相

杉本 弘幸

私が近代部落問題研究に関わるようになったきっかけを以前に書かせていただいたことがある(「近代日本社会と差別をめぐる研究動向」『部落問題研究』一五八輯、二一年)。そこそこの反響と、多くの批判を受けた。そこで書き漏らしたことを書いておこう。

近代部落問題研究の勉強をしようと思ったとき、手にした書は『部落の歴史と解放運動』であったり、『部落解放史』であり、部落史は面白いという類のものでもあった。

しかし、全く面白くなかった。当然だ。私は社会福祉史や、社会政策史の研究をしたいのであり、部落問題の研究をしたいわけではなかった。以前の論稿でも述べたように、私は自分が受けた「同和教育」については、決定的な悪印象をもっていた。私にとっては、

近代京都の都市社会政策を取り扱う上で、部落問題の勉強もする必要がある。という意識が強かった。

その時、大学図書館で一つの本を手にとった。「つまりない部落問題の本」である以上、期待は全くしていなかった。しかしその書は序章が衝撃的だった。いままで全く判らなかつた研究史が、極めて明解に、研究以外の政治的対立にいたるまで詳細にかかれていたのである。その本は、家に帰ってノートをとりながら全て綿密に読んだ。その本は、藤野豊『水平運動の社会思想的的研究』(雄山閣出版、一九八九年)であった。このよ

うな優れた研究があるのなら、近代部落問題研究もまじめに勉強してみよう。価値があるのではないか、そう思わせる一書であった。

もし私が藤野氏(以下敬称略)の

本に出会わなければ、ほとんどの社会福祉史や社会政策史研究のように、部落問題や社会的差別の問題など眼中にいれず、全く避けて研究を進めていただろう。その意味で、藤野の研究は、私の研究の原点であるといつてもいい存在なのである。

ではなぜ藤野は、厳しい政治的対立や、自由な研究が行えない環境の中で、独自の優れた歴史学研究を構築しえたのだろうか？

本書には藤野の研究姿勢や、その時々におかれた状況など彼の生の声が詰めこまれている。以下、構成をしめそう。

序章	歴史学における地域
第一章	神奈川の水平社運動
第二章	別府・的ヶ浜との出会い
第三章	奄美のハンセン病問題
第四章	熊本・本妙寺からの出発
第五章	「滅び行くアイヌ」像の復活
第六章	「紀元二六〇年」の記憶
第七章	沖繩の買売春
第八章	「村興し」と「トルコ風呂」

第九章	隠された横浜の戦後史
第一〇章	ソロクト、楽生院、そしてミクロナシア
第十一章	「裏日本」の農村
終章	差別の連鎖を断て

本書の魅力は、まさに藤野の研究のターニングポイントのその場、その場に読者も立ち会っているかのような臨場感である。

たとえば、ハンセン病問題を研究しようとしている時に、「恥ずかしながら打算があった。わたくしは、早く大学などの研究機関に就職して日本近代史の研究に没頭したかったが、まったく就職の見込みは立っていなかった。部落問題の歴史を研究しても、それは学界ではまともな学問研究とは認めてもらえなかった。（中略）たしかに部落問題の研究をとおして運動団体の『御用学者』となり、政治力でポストにありつくことは可能であり、わたくしも一時、そうした道も考えたが、やはり『御用学者』にはなり切れなかった。『部落問題論』の講義の非常勤講師をしていたある大学で、運動団体の意向に沿ったテキストを使用するように、求められていたが、それは大学の自治、学問の自由へ

の侵害だとして拒否しつづけていた。そうした経験から、ハンセン病問題の歴史的な研究など、就職にはまったく不利だろうと考えられた。現実的なことを考えれば、もつと就職に有利な、学界の誰もが関心をもつテーマを手掛けるべきではないか。そうした不安もわたくしを優柔不断にした。」（六〇頁）というあまりに率直な告白が行われる。

結局、藤野は光田健輔直系の長島愛生園の園長と対話する中で、絶対隔離の現実と直面し、「この園長の発言が、わたくしの心から打算や不安を一掃させた。生涯、非常勤講師でかまわない。このような園長がいるかぎり、徹底的に隔離政策の歴史を解明し、隔離が誤りだったことを実証しなくてはならない。」（六一頁）とハンセン病政策の研究に着手する。

このように運動と研究の正しい関係、あるいは社会的差別の研究を遂行する姿勢について、我々は藤野の苦悩とともに知ることができるのである。

紙数がつきたが、本書を一読することを強くお薦めする。

（京都市市政史編纂助手）

## 2007年度部落史連続講座 京都の被差別部落と仕事 その1

- 第1回 6月1日（金）「中世の被差別民と芸能」  
村上 紀夫さん（大阪人権博物館）
- 第2回 6月15日（金）「近世 仕事三大咄 国家公務員・委託事業・芸能プロダクション」  
辻 ミチ子さん（元京都文化短期大学）
- 第3回 6月21日（木）「職業規制から見た京都の町」  
小林 丈広さん（京都市歴史資料館）

時間：午後6時30分～8時30分 場所：京都府部落解放センター2階 実習室 参加費：無料  
～ 参加希望の方は電話・FAX・電子メールでご連絡ください ～

合会

差別の歴史を考える 31 15年戦争と差別 2 ひろたまさき

部落解放研究 174 (部落解放・人権研究所刊, 2007.2) : 1,000円

特集 成人教育としての人権啓発

人権学習プログラムづくりのために 最近の学習論をふりかえって 森実 / 人権学習における学習支援とチューターの役割 人権教育と人権文化の二つの観点から 渡邊洋子 / 社会教育のインパクトとエビデンス 人権教育・啓発にかかわって 花立都世司 / 公民館における連続講座コーディネーター 浮穴正博

定住魅力ある住まいとまちづくり 多様な住宅供給はなぜ進んでいないのか 寺川政司

部落問題・人権問題意識調査の動向 内田龍史

茨木市PTA協議会で差別事象に取り組んで 安孫子浩子 書評

岸裕司『中高年パワーが学校とまちをつくる』 高田一宏 / 熊沢誠『若者が働くとき「使い捨てられ」も「燃えつき」もせず』 亀山俊朗

部落解放研究 13 (広島部落解放研究所刊, 2006.12) : 1,000円

特集 現代社会の差別と排除

部落のフリーター 貧困の固定化、排除の蓄積 妻木進吾 / 晴眼者が盲人か 「どっちつかず」を生きる 秋風千恵

広島の教育荒廃 その実相に迫る 秋光民恵

戦争をめぐる中日仏教徒の呼びかけと応答 野世英水

サントニーニョと千羽鶴 広島のフィリピンコミュニティに関する予備的考察 高畑幸

広島における地下壕と朝鮮人労働者 ドキュメンタリービデオ『土の記憶』フィールドノート 伊藤園実

部落解放ひろしま 80号 (部落解放同盟広島県連合会刊, 2007.1) : 1,000円

特集 未来ある子ども達へ 差別を許すな、負けるな

解放運動の人間像 23 主体の確立を深く考える 小森龍邦

部落問題研究 178 (部落問題研究所刊, 2006.12) : 1,111円

欧州とドイツにおける人権教育の動向 生田周二

「教育の平等」論のアンビバレンスを問う 1 コモン・スクール改革期から教育基本法の意義へ 森田満夫

「結婚差別」解消への展望 杉之原寿一

本願寺史料研究所報 31号 (本願寺史料研究所刊, 2006.11)

花山火葬場について (2 承前 結) 左右田昌幸

ライツ 91 (鳥取市人権情報センター刊, 2006.12)

今月のいちおし! 『手紙』 (東野圭吾著) 坂根政代

ライツ 92 (鳥取市人権情報センター刊, 2007.1)

今月のいちおし! 『証言・ハンセン病 もう、うつむか

ない』 (村上絢子著) 田中澄代

ライツ 93 (鳥取市人権情報センター刊, 2007.2)

今月のいちおし! 映画「トランスアメリカ」 小宮山聖美

ライツ 94 (鳥取市人権情報センター刊, 2007.3)

今月のいちおし! 映画「クラッシュ」 福寿みどり

リージョナル 5 (奈良県立同和問題関係史料センター刊, 2007.1)

奈良町北郊夙村の由緒の物語 吉田栄治郎

近世穢多村の村と寺 複数の真宗寺院が所在する村

奥本武裕

明治初期の被差別部落における神社整備 大和国葛下郡東山村の事例から 井岡康時

立命館大学国際平和ミュージアムだより 40号 (立命館大学国際平和ミュージアム刊, 2007.3)

ミュージアムおすすめの1冊 『戦争をなくすための平和教育 「暴力の文化」から「平和の文化」へ』 (ベティ・リアドン, アリシア・カベスード著)

広報誌リパティ 36 (大阪人権博物館刊, 2007.1)

総合展示批評 リパティおおさかを見守ってきた者として 今木誠造

リベラシオン 124 (福岡県人権研究所刊, 2006.12) : 1,000円

特集 部落差別はなくなったか?

連続・大量差別はがき事件の判決をうけて 浦本誉至史 / ネット社会と部落差別 田畑重志 / 部落差別の現実と私たちの課題 部落解放同盟福岡県連合会人権対策部・教育対策部 / 福岡県立花町における連続差別はがき事件

の経過と課題 差別事件と行政の責務について 堀内忠 / 「福岡県同和地区生活実態調査報告書」の概要と見解

森山浩一 / 6年生の部落史学習のあり方 『今Dokiの部落史学習』 原田雅秀 / 福岡市都町・くらしと運動の記録 『くらしと差別』 『続くらしと差別』を読んで 金山登郎

資料紹介 狭山第3次再審請求書より 文字習得能力及び文章構成能力に関する意見書 (抄録) 川向秀武, 加藤陽一

図書の紹介 『水平の行者 栗須七郎』 (廣畑研二著) 小正路淑泰

歴史学研究 824 (青木書店刊, 2007.2)

1940-60年代の都市社会政策と地域住民組織 京都市社会行政と「不良住宅地区」対策をめぐって 杉本弘幸

和歌山の部落史編纂会だより 1号 (和歌山の部落史編纂会刊, 2006.12)

講演録 三昧聖と高野山について 日野西眞定

調査研究活動の一齣

室町時代高野山領の土地台帳に現れた人宿 小倉英樹 /

婦人会活動と人権問題 矢野治世美

ぎをみつめる 今井貴代子

ヒューマンライツ 227 (部落解放・人権研究所刊, 2007.2) : 525円

大阪「飛鳥会」問題等不祥事と人権報道の本質について考える 稲積謙次郎

走りながら考える 70 格差拡大から格差是正のために 格差の原因に迫る政策を 北口未広

韓国における旧「白丁」出身者に対する意識状況について 徐知延, 徐知伶

「同和教育論」の教室から 2 被差別部落の教育観 木村和美

社会科教科書における部落問題に関する記述についての一考察 3 小学6年社会科教科書(2006年度版)を対象に 溝垣千春

ヒューマンライツ 228 (部落解放・人権研究所刊, 2007.3) : 525円

「同和教育論」の教室から 3 いまシティズンシップを考える イギリスの市民性教育の現場から 北山夕華

公民教科書における部落問題の記述に関する一考察 4 ~中学校社会・公民教科書、高校「政治経済」(2006年度版)を対象に~ 渡邊明彦

ひょうご部落解放 123 (ひょうご部落解放・人権研究所刊, 2006.12) : 700円

特集 兵庫県水平運動史研究の現在

座談会 兵庫県水平運動史研究の現在 前川修・本郷浩二・関口寛・手島一雄・朝治武・駒井忠之/兵庫県水平運動史研究の成果と課題 本郷浩二/兵庫県水平社関係史料の紹介 水平社博物館所蔵資料から 守安敏司

再び兵庫の部落史に学ぶ 3 丹波・播磨の戦国小領主とその妻女・息女たち 妻女・息女の運命をなぜかわた道場主に託したのか 安達五男

友井公一・斎藤洋一往復書簡

安保則夫さんの立場 『ミナト神戸 コレラ・ペスト・スラム』の復刊に寄せて 小林丈広

映画の紹介 『ディア・ピョンヤン』 高吉美

本の紹介

『三浦参玄洞論説集』 奥本武裕 / 『近代日本の水平運動と融和運動』 丸山眞青 / 『まんが「狭山事件」』 角岡伸彦

部落解放 575号(解放出版社刊, 2007.1) : 630円

特集 生活保護制度を考える

東京音楽通信 心に響く声と歌 改進黨支部女性部の二つの公演 藤田正

新しいステージに進むための改革を 日之出四施設の「廃止・統合・移管」に反対する取り組み 部落解放同盟大阪府連合会日之出支部

障害者差別をなくすための条例が成立しました! 千葉県からの報告 山田晴子

アメリカ中間選挙と差別発言 神林毅彦

水平の行者 栗須七郎 知られざる対検閲10年闘争と水平

道舎の軌跡 廣畑研二

差別の歴史を考える 28 帝国意識の社会的形成 ひろたまさき

部落解放 576号(解放出版社刊, 2007.1) : 1,050円  
第37回部落解放・人権夏期講座報告書

部落解放 577号(解放出版社刊, 2007.2) : 630円  
特集 融和運動再考

同愛会から中央融和事業協会の再編へ 手島一雄/再編後の中央融和事業協会 朝治武/水平運動と融和運動 黒川みどり

本の紹介

『未来につなぐ近現代史 オケットンム 東アジア編』(奈良県外国人教育研究会編)/『子どもが会おう犯罪と暴力』(森田ゆり著)/『安倍晋三の本性』(俵義文・横田一・魚住昭・佐高信著)/『この国のゆくえ 殺される側からの現代史』(『週刊金曜日』編)/『分断される日本』(斎藤貴男著)/『黄金町マリア 横浜黄金町 路上の娼婦たち』(八木澤高明著)

高城雅毅・中央統制委員長を追悼する 組坂繁之  
差別の歴史を考える 29 同化と異化 ひろたまさき

部落解放 578号(解放出版社刊, 2007.2) : 1,050円  
部落解放研究第40回全国集会報告書

部落解放 579号(解放出版社刊, 2007.3) : 630円  
特集 マイノリティ女性実態調査

本の紹介

『子どもがつながる学級集団づくり入門』(新保真紀子著)/『障害者市民ものがたり もうひとつの現代史』(河野秀忠著)/『日本はどうなる2007』(『週刊金曜日』編)/『でっちあげ 福岡「殺人教師」事件の真相』(福田ますみ著)/『ぼくはアメリカを学んだ』(鎌田遵著)/『ゲイ@パリ 現代フランス同性愛事情』(及川健二著)

青少年施策充実に逆行、再考を 大阪市立青少年会館条例の「廃止」方針をめぐる 住友剛

資料 京都市不祥事についての部落解放同盟京都府連合会の見解 部落解放同盟京都府連合会委員長 大野昭則

差別の歴史を考える 30 15年戦争と差別 1 ひろたまさき

部落解放 580号(解放出版社刊, 2007.4) : 630円  
特集 いじめを考える

本の紹介 『世界屠畜紀行』(内澤旬子著) 今江祥智  
見えてくる格差拡大 2005年『福岡県同和地区生活実態調査報告書』から 森山沾一

強制連行とは何か 朝鮮人強制連行被害者の遺骨返還運動のなかで論議 川瀬俊治

『部落 三百万人の訴え』の出版 上 「寝た子を起こすな」は許されない 平野一郎

資料 部落解放同盟古市支部元支部長(元奈良市協副議長、元県連統制委員)中川氏(通称・吉田)問題についての最終見解<再生への決意> 部落解放同盟奈良県連

- 下座)しない丑松・テキサスへ行かない丑松 小原亨  
 /森田草平の『破戒』批評 桑原律/夏目漱石と『破戒』  
 評 水川隆夫  
 現地報告 奈良市 奈良市職員の病気休暇・休職問題 西  
 本守直  
 米軍再編と知事選挙後の沖縄の現実 佐次田勉  
 文芸の散歩道 "路地"に生きる青春 中上健次『岬』・  
 『枯木灘』 渡辺巴三郎  
 差別と向き合うマンガたち 36 「差別表現」と復刻の意  
 義 2 解放運動の方法論を考える契機 表智之  
 戦後同和行政の展開と支配政策 8 「同和対策の縮小・  
 削減」政策への転換 (上) 杉之原寿一  
 じんけんぶんかまちづくり 14号(とよなか人権文化  
 まちづくり協会刊, 2007.3)  
 蛍池の部落解放運動・戦前 前田勝正  
 伊丹市中村地区視察記 3 終戦で終わらせてはなら  
 ない。共生社会実現を妨げているもの 領家穰  
 季刊人権問題 346(兵庫人権問題研究所刊, 2007.1):  
 735円  
 奈良市職員の病気休暇・休職問題~同和行政のゆがみを  
 追及してきた日本共産党市議団~ 西本守直  
 月刊スティグマ 128号(千葉県人権啓発センター刊,  
 2006.12): 500円  
 特集 「障害のある人もない人も共に暮らしやすい千葉  
 県づくり条例」成立  
 月刊地域と人権 276(全国地域人権運動総連合刊, 20  
 07.1): 350円  
 人権擁護法案や人権救済条例をめぐる動向など 新井直  
 樹  
 月刊地域と人権 277(全国地域人権運動総連合刊, 20  
 07.2): 350円  
 特集 1 同和行政終結の課題  
 飛鳥会事件に対する解放同盟の手前勝手な詭弁 杉之原  
 寿一/京都市の「選考採用」についての見解 京都地域  
 人権運動連合会府連委員会  
 特集 2 弓矢人権裁判の終結と課題  
 地域と人権京都 492号(京都地域人権運動連合会刊,  
 2007.1): 150円  
 京都市の「選考採用」についての見解 京都地域人権運  
 動連合会  
 地域と人権京都 494号(京都地域人権運動連合会刊,  
 2007.2.1): 150円  
 信頼回復と再生のための抜本改革大綱に対する公開質問  
 状  
 であい 537(全国同和教育研究協議会刊, 2006.12):  
 150円  
 であい 5 長野県同和教育の源流 中山英一  
 であい 538(全国同和教育研究協議会編, 2007.1): 1  
 50円  
 人権文化を拓く 117 歴史に翻弄された在日一世 李朋彦  
 であい 539(全国同和教育研究協議会編, 2007.2): 1  
 50円  
 人権文化を拓く 118 湖北の村からアジアが見える 平井  
 茂彦  
 どの子も伸びる 373(部落問題研究所刊, 2007.1):  
 735円  
 「人権教育」批判 「新任教員のためのガイドブック」  
 の問題点 2 谷口幸男  
 どの子も伸びる 374(部落問題研究所刊, 2007.2):  
 735円  
 「人権教育」とは 映画「ふたりのタロウ」(アニメー  
 ション)の問題点 谷口幸男  
 どの子も伸びる 375(部落問題研究所刊, 2007.3):  
 735円  
 「人権教育」とは ビデオ教材「美しいメッセージ」の  
 学習の問題点 谷口幸男  
 なら解放新聞 741号(奈良県部落解放同盟支部連合会  
 刊, 2006.12): 140円  
 どう考える? 解放同盟をめぐる一連の不正事件 藤田敬  
 一, 吉田智弥  
 地域社会の歴史的諸相を考える 最終回 吉田栄治郎  
 なら解放新聞 742号(奈良県部落解放同盟支部連合会  
 刊, 2007.1): 140円  
 どう考える? 解放同盟をめぐる不正事件 奈良市役所の  
 醜聞 吉田智弥  
 なら解放新聞 743号(奈良県部落解放同盟支部連合会  
 刊, 2007.2): 140円  
 どう考える? 部落解放同盟をめぐる一連の不正事件  
 この難儀を乗り越える運動の再生を 藤本孝幸/大阪・  
 飛鳥会事件「小西邦彦元理事長に懲役6年の実刑判決」  
 に思う 藤田敬一  
 ねっとわーく京都 216(ねっとわーく京都21刊, 2007.  
 1): 500円  
 特集 大型座談会 京都市政の病根・持病と対峙した10年  
 「市民ウォッチャー・京都」が見続けてきた京都市政  
 解放同盟はこのまま凋落したままか!? 寺園敦史  
 ねっとわーく京都 217(ねっとわーく京都21刊, 2007.  
 2): 500円  
 解放同盟は何を謝罪したのか 「支部活動停止処分」の  
 軽さ 寺園敦史  
 はらっぱ 270(子ども情報研究センター刊, 2007.1)  
 特集 障害児教育はいま  
 はらっぱ 271(子ども情報研究センター刊, 2007.3)  
 特集 「いじめ」について考える  
 ヒューマンライツ 226(部落解放・人権研究所刊, 20  
 07.1): 525円  
 格差社会とその課題 橋木俊詔  
 走りながら考える 69 このテレビ報道は偏っていないか  
 過日の毎日放送・報道番組を見て 北口末広  
 「同和教育論」の教室から 1 日常から「境界」のゆら



見俊輔＋藤田敬一

横浜・寿識字学校から 5 きくこと・聞くこと・聴くこと 大沢敏郎

こべる 167 (こべる刊行会刊, 2007.2) : 300円

「部落解放同盟は解散すべきとき」なのか 福岡ともみ  
学力大合唱の時代に 原田琢也

宴の作法 飲酒運転問題に思う 野町均

いのち 生き合う 5 死別体験者として 杉山光洋

こべる 168 (こべる刊行会刊, 2007.3) : 300円

ひろば 113 「当事者」とはだれのことが 高田嘉敬

ある光景 21 暮しの中で ボランティア・犬食、そして  
... 重信陽子

四日市から 12 草原の風に吹かれて モンゴル滞在記  
坂倉加代子

学校の風景から 8 体育館 中西宏次

こべる 169 (こべる刊行会刊, 2007.4) : 300円

尼崎だより 24 人間の限りない優しさを知ったハンセン  
病療養所 中村大蔵

学校の風景から 9 世代交代 長谷川洋子

横浜・寿識字学校から 6 識字・<声>の文化 大沢敏郎

ひろば 114 いのち 生き合う 6 エージェント・ネットワー  
クの仲間たち 杉山光洋

コリアNGOセンターNews Letter 10 (コリアNGOセ  
ンター刊, 2006.12)

エッセイ 在日コリアン文化散歩 「ディア・ピョンヤン」  
1 小林恭二

月刊滋賀の部落 399 (滋賀県同和問題研究所刊, 2006.  
12) : 400円

滋賀における部落解放運動の証言 水平社運動の戦士、  
元部落解放同盟滋賀県連副委員長 朝野温知 9 鈴木俊亮  
月刊滋賀の部落 400 (滋賀県同和問題研究所刊, 2007.  
1) : 600円

『滋賀の部落』201号～400号の歩みをふりかえる 山田  
稔

座談会 『滋賀の部落』のこれまでと、これから 創刊4  
00号を記念して

月刊滋賀の部落 総目次 201号～400号 (1992年8月～20  
07年1月)

月刊滋賀の部落 401 (滋賀県同和問題研究所刊, 2007.  
1) : 400円

滋賀における部落解放運動の証言 水平社運動の戦士、  
元部落解放同盟滋賀県連副委員長 朝野温知 10 鈴木俊  
亮

月刊滋賀の部落 402 (滋賀県同和問題研究所刊, 2007.  
2) : 400円

滋賀における部落解放運動の証言 水平社運動の戦士、  
元部落解放同盟滋賀県連副委員長 朝野温知 11 鈴木俊  
亮

月刊滋賀の部落 403 (滋賀県同和問題研究所刊, 2007.  
3) : 400円

同和行政を終結させる「隣保館廃止」の報道  
格差と貧困 武元勲

日野文化会館が閉館される 同和行政を一掃したことで、  
新たな歴史の幕開けに 高岡光浩

滋賀における部落解放運動の証言 水平社運動の戦士、  
元部落解放同盟滋賀県連副委員長 朝野温知 12 鈴木俊  
亮

種智院大学研究紀要 8号 (種智院大学刊, 2007.3)

近世本願寺教団における末寺数の変遷について 左右田  
昌幸

人権21 調査と研究 185 (岡山人権問題研究所刊, 200  
6.12) : 650円

特集 人権と教育

ドイツとヨーロッパの人権学習 1 ニュルンベルク市の  
人権をめぐる取り組み 生田周二

人権21 調査と研究 186 (岡山人権問題研究所刊, 200  
7.2) : 650円

特集 朝日訴訟とNPO法人朝日訴訟の会

人権と部落問題 754 (部落問題研究所刊, 2007.1) :  
630円

特集 教育基本法の「改正」

文芸の散歩道 近世文芸に著された段 (弾) 左衛門  
「世間咄風聞集」より 小原亨

差別と向き合うマンガたち 34 マンガの名前 そこに込  
められた役割とは 吉村和真

連載 戦後同和行政の展開と支配政策 8 「同特法」三年  
延長と「地対法」制定の意図 杉之原寿一

人権と部落問題 755 (部落問題研究所刊, 2007.2) :  
630円

特集 移民の歴史と課題

日本の海外移民・略史 坂口満宏 / アメリカ合衆国の移  
民問題 メキシコ系を中心に 江成幸 / フランスの移  
民問題 その歴史と現状 薬師院仁志 / オーストラリアの  
日本人 夢追い人たちの変遷 鈴木清史

続発する京都市職員の犯罪・不祥事 その背景と解決に  
むけた課題 杉之原寿一

第44回部落問題研究者全国集会報告

文芸の散歩道 帝国大学令とホイットマン論 夏目漱石  
と明治を歩く6 水川隆夫

差別と向き合うマンガたち 35 どこにでもあり、どこに  
もない日本の村 『カムイ伝』の風景 田中聡

人権と部落問題 756 (部落問題研究所刊, 2007.2) :  
1,155円

特集 継続される不公正乱脈の同和対策 大阪

人権と部落問題 757 (部落問題研究所刊, 2007.3) :  
630円

特集 島崎藤村『破戒』刊行100年

『破戒』の史的先駆性 作中世界の一断面から 川端  
俊英 / 『破戒』が出版されるまで 成澤榮壽 / 21世紀を  
生きる『破戒』 秦重雄 / 映画『破戒』の時好性 「土

- むこうに見えるは 改進の部落史 14  
解放新聞京都版 747号(解放新聞社京都支局刊, 2007.2.20): 70円
- むこうに見えるは 改進の部落史 15  
解放新聞京都版 748号(解放新聞社京都支局刊, 2007.3.1): 70円
- むこうに見えるは 改進の部落史 16  
解放新聞京都版 749号(解放新聞社京都支局刊, 2007.3.10): 70円
- この人に聞く 77 運動をふり返って 5 前田支部 山本正一
- むこうに見えるは 改進の部落史 17  
架橋 16(鳥取市人権情報センター刊, 2007.3)  
特集 子どもたちの声に耳を傾けて...  
ハンセン病人権問題 「一般件名」の表記が私たちに問いかけているもの 清見久夫  
語る・かたる・トーク 142(横浜国際人権センター刊, 2006.12): 500円
- わたしと部落とハンセン病 15 林力  
信州の近世部落の人びと 19 旦那寺 2 斎藤洋一  
同和問題再考 72 秘話 磯村元地对協会長の「失態」 田村正男  
部落差別の現実 53 いじめ問題特集 1 いじめ問題を考える 江嶋修作  
語る・かたる・トーク 143(横浜国際人権センター刊, 2007.1): 500円
- わたしと部落とハンセン病 16 林力  
信州の近世部落の人びと 20 旦那寺 3 斎藤洋一  
同和問題再考 73 「同和教育」の出発(上) 田村正男  
部落差別の現実 54 いじめ問題特集 2 江嶋修作  
語る・かたる・トーク 144(横浜国際人権センター刊, 2007.2): 500円
- わたしと部落とハンセン病 17 林力  
信州の近世部落の人びと 21 旦那寺 4 斎藤洋一  
同和問題再考 74 「同和教育」の出発(中) 田村正男  
部落差別の現実 55 いじめ問題特集 3 江嶋修作  
カトリック大阪教会管区部落問題活動センターたより 7(カトリック大阪教会管区部落問題活動センター刊, 2007.1)  
「同和对策事業」の不正事件から、解放運動の質が問われている昨今 前川修さんの話  
かわとはきもの 138(東京都立皮革技術センター台東支所刊, 2006.12)  
靴の歴史散歩 83 稲川實  
正倉院と皮革 3 履の白眉は、華麗な衲御礼履 展示頻度の高い逸品中の逸品 出口公長  
皮革関連統計資料  
関西大学人権問題研究室紀要 53号(関西大学人権問題研究室刊, 2006.12)  
中小企業と障害をもつアメリカ人法 伊藤健市
- 関西大学茨木市民人権講座 「破戒」百年と部落問題 吉田永宏  
2000年以降の自閉症論 串崎真志  
「人権問題研究室紀要」既刊号目録(第43号~第52号) 季節よめぐれ 227号(京都解放教育研究会刊, 2006.12)  
見えない差別、見えない問題 セクシュアル・マイノリティの現在 性のありようと社会 平野広朗  
季節よめぐれ 228号(京都解放教育研究会刊, 2007.1)  
部落形成の四類型 小林丈広  
季節よめぐれ 229号(京都解放教育研究会刊, 2007.2)  
性的少数者問題と学校教育 塩安九十九, 西ちづる, 中村雅樹  
季節よめぐれ 230号(京都解放教育研究会刊, 2007.4)  
つくりかえられる徴 近代社会と部落差別 黒川みどり  
京都市政史編さん通信 27号(京都市市政史編さん委員会刊, 2006.12)  
京都御所・御苑空間と近代日本の天皇制 上 伊藤之雄  
京都文教短期大学研究紀要 45集(京都文教短期大学刊, 2007.3)  
障害者福祉教育の課題 5 共生社会に向けて 石野美也子  
きょうの論談 47号(論談社刊, 2007.2): 500円  
京都市職員不祥事について 緊急執筆第5弾 組織内の信頼関係ができることを願う 梶宏  
キリスト教社会問題研究 55号(同志社大学人文科学研究会刊, 2006.12)  
近世の公的救済と近代的慈善事業の特質について 棄児養育米制度に注目して 細井勇  
クロノス 26(京都橘大学女性歴史文化研究所刊, 2007.3)  
食の歴史と女性 2 南直人  
イギリス女性生活誌 本を読むための苦闘 メアリ・サマヴィルの場合 松浦京子  
男と女 美意識の変遷 19 テクノロジーと看護の専門性 梶谷佳子  
BOOK REVIEW 『性と生殖の女性学』(鎌田明子著) 川口美奈子  
グローブ 48(世界人権問題研究センター刊, 2007.1)  
その背後に見えてくるもの 識字学級でのMさんとの出会いを通して 井上新二  
歴史的遺産としての職業紹介所 白木正俊  
新京阪電鉄工事と朝鮮人労働者 高野昭雄  
研究所通信 341(部落解放・人権研究所刊, 2007.1): 100円  
大阪市立青少年会館の「廃止」方針をめぐる 充実が求められている青少年施策に逆行 住友剛  
高麗美術館館報 73号(高麗美術館刊, 2007.1)  
朝鮮通信使と雨森芳洲 上田正昭  
こべる 166(こべる刊行会刊, 2007.1): 300円  
対談 人間と差別について考える 3 人間と向き合う 鶴

( 瀧澤厚著 )

解放新聞 2302号 ( 解放新聞社刊, 2007.1.15 ) : 80円  
山口公博が読む今月の本

『トライトーン』( 宮本誠一著 ) / 『教師力を磨く』  
( 仲島正教著 ) / 『何がおかしい』( 中島らも著 )

解放新聞 2304号 ( 解放新聞社刊, 2007.1.29 ) : 80円  
京都市不祥事についての部落解放同盟京都府連合会の見解

山口公博が読む今月の本

『格差社会 何が問題なのか』( 橋本俊詔著 ) / 『ウェルカム・ホーム!』( 鷲沢萌著 ) / 『風林火山』( 井上靖著 )

解放新聞 2305号 ( 解放新聞社刊, 2007.2.5 ) : 120円  
2007年度一般運動方針 ( 第1次草案 )

解放新聞 2306号 ( 解放新聞社刊, 2007.2.12 ) : 80円  
部落解放同盟古市支部元支部長 ( 元奈良市協議副議長、元  
県連統制委員 ) 中川氏 ( 通称・吉田 ) 問題についての最終見解  
< 再生への決意 > 部落解放同盟奈良県連合会  
明日に向かって 部落解放同盟奈良県連合会執行委員長  
川口正志

解放の文学 10 真継伸彦と『光る聲』 行動的知識人を  
追及 音谷健郎

今週の1冊 『食糧テロリズム』( ヴァンダナ・シヴァ著 )

解放新聞 2307号 ( 解放新聞社刊, 2007.2.19 ) : 80円  
精神障害者に対する差別的記載に関する謝罪と見解 07  
年1月17日 部落解放同盟中央本部執行委員長 組坂繁之  
解放新聞 2308号 ( 解放新聞社刊, 2007.2.26 ) : 80円  
今週の1冊 『国家・社会変革・NGO 政治への視線 NGO運  
動はどこへ向かうべきか』( 藤岡美恵子他編 )

山口公博が読む今月の本

『ふるしきと手ぬぐいの本』( 京都和文化研究所むす美、  
株式会社ケイス監修 ) / 『京の和菓子 暮らしを彩る四季  
の技』( 辻ミチ子著 ) / 『夢の痂』( 井上ひさし著 )

解放新聞 2309号 ( 解放新聞社刊, 2007.3.5 ) : 120円  
解放の文学 11 大岡昇平とレイテ戦記 『戦争体験と冷たい  
情念』 音谷健郎

今週の1冊 『中世賤民の宇宙 ヨーロッパ原点への旅』  
( 阿部謹也著 )

ぶらくを読む 20 過去の音・声に共鳴するハーンの耳  
湧水野亮輔

解放新聞 2310号 ( 解放新聞社刊, 2007.3.12 ) : 80円  
全国大会特集号

解放新聞 2311号 ( 解放新聞社刊, 2007.3.19 ) : 80円  
今週の1冊 『ルポ 改憲潮流』( 斎藤貴男著 )

解放新聞 509号 ( 岡山解放新聞社刊, 2006.9.10 )  
全国水平社の創立といま 2003年6月1日 岡山県水平社創  
立80周年記念集会講演要旨 5 師岡佑行

解放新聞大阪版 1677号 ( 解放新聞社大阪支局刊, 200  
7.2.12 ) : 70円

不祥事以降の報道で府連がメディア各社に質問状

解放新聞大阪版 1678号 ( 解放新聞社大阪支局刊, 200  
7.2.19 ) : 70円

新聞5社に府連が公開質問状 飛鳥会事件以降の報道につ  
いて各社から回答

解放新聞大阪版 1679号 ( 解放新聞社大阪支局刊, 200  
7.2.26 ) : 70円

産経新聞への質問と回答

解放新聞大阪版 1680号 ( 解放新聞社大阪支局刊, 200  
7.3.5 ) : 70円

読売新聞への質問と回答

解放新聞大阪版 1681号 ( 解放新聞社大阪支局刊, 200  
7.3 ) : 70円

毎日新聞への質問と回答

解放新聞改進黨 354号 ( 部落解放同盟改進黨支部刊, 20  
06.12 )

ルポ! 改進黨学習施設 教育文化を礎に充実した学力と将  
来展望を切り拓くために

統計データから改進黨地区の生活実態を学ぶ~NPO人権ネッ  
トワークウェブ21と連携して~

解放新聞改進黨 355号 ( 部落解放同盟改進黨支部刊, 20  
07.1 )

「雇用促進の意義・目的」を再認識し解放運動の構築と  
展望を切り拓いて!

解放新聞改進黨 357号 ( 部落解放同盟改進黨支部刊, 20  
07.2 )

改進黨地区発 同和教育の変遷を探る 2 明日への架け橋

改進黨地区の歴史 8

解放新聞改進黨 358号 ( 部落解放同盟改進黨支部刊, 20  
07.3 )

記念講演 教育懇談会30年を迎えて 2

改進黨地区の歴史 9

解放新聞京都市版 183号 ( 部落解放同盟京都市協議会  
刊, 2007.1 ) : 100円

これからの闘いに向けて 部落解放同盟京都市協議会議  
長 梅本十三郎

解放新聞京都版 742号 ( 解放新聞社京都支局刊, 2006.  
12.20 ) : 70円

むこうにみえるは 改進黨の部落史 11

解放新聞京都版 臨時号 ( 解放新聞社京都支局刊, 200  
6.12.25 ) : 40円

京都市不祥事についての部落解放同盟京都府連合会の見  
解

解放新聞京都版 744号 ( 解放新聞社京都支局刊, 2007.  
1.20 ) : 70円

むこうにみえるは 改進黨の部落史 12

解放新聞京都版 745号 ( 解放新聞社京都支局刊, 2007.  
2.1 ) : 70円

むこうにみえるは 改進黨の部落史 13

解放新聞京都版 746号 ( 解放新聞社京都支局刊, 2007.  
2.10 ) : 70円

# 収集逐次刊行物目次 (2007年1月～3月受入)

～各逐次刊行物の目次の中から部落問題関係のものを中心にピックアップしました～

アイユ 188 (人権教育啓発推進センター刊, 2007.1)  
 歩きながら考えて 1 深い暗闇 炭谷茂  
 明日を拓く 66 (東日本部落解放研究所刊, 2006.11) :  
 1,050円  
 狭山第三次再審・新しい意見書のねらい 非識字者への  
 落とし穴 川向秀武  
 狭山「自白」の再現実験が明かにしたこと 山下恒男  
 長吏旦那場とその質入れについて 大熊哲雄  
 史料紹介 『明治前期大審院民事判決録』から その2  
 「職場」を担保とする金融に関する埼玉県の四件 藤沢  
 靖介  
 中世戦国期、東日本の長吏・かわた 戦国大名の文書を  
 中心に 藤沢靖介  
 IMADR-JC通信 146 (反差別国際運動日本委員会刊, 200  
 7.1) : 500円  
 特集 マイノリティ女性のエンパワメント  
 ウィングスきょうと 78号 (京都市女性協会刊, 2007.  
 2)  
 図書情報室新刊案内  
 『算法少女』(遠藤寛子著) / 『自分を守る力を育てる  
 セーフティーンの暴力防止プログラム』(アニタ・  
 ロバーツ著)  
 大阪人権博物館紀要 9号 (大阪人権博物館刊, 2007.1)  
 特集 上田静一と部落改善運動  
 田中親友夜学校と上田静一 白石正明 / 京都・田中部落  
 の改善運動と上田静一 朝治武 / 上田静一略年譜 大藪岳  
 史 / 上田静一資料目録 大藪岳史  
 日本による海南島軍事占拠について 日本軍関係資料と  
 実地調査を中心に 文公輝  
 新田長次郎小論 新田帯革の業態を中心に 吉村智博  
 アジア・太平洋戦争期の『少女の友』 読者投稿欄の分  
 析を中心に 裕夕記  
 事業報告 体験講座「豚皮でランプシェードをつくろう」

吉田種司  
 資料目録 太平丸福レコードと普久原朝喜 マルフクレ  
 コードSP盤目録の補足として 仲間恵子  
 解放教育 470 (解放教育研究所編, 2007.1) : 740円  
 特集 にんげん実践の深化をめざして にんげんセミナー  
 2006 ミニ講演報告  
 元気のもととはつながる仲間 22 同和教育は事実と実践で  
 勝負するからこそ 外川正明  
 解放教育 471 (解放教育研究所編, 2007.2) : 740円  
 特集 人権教育へのキャリア教育アプローチ  
 元気のもととはつながる仲間 23 響け歌声、届けメッセ  
 ジ 3つの素敵なコンサート 外川正明  
 解放教育 472 (解放教育研究所編, 2007.3) : 740円  
 特集 2006年・教育をふりかえる  
 今、「同和」教育の課題は 中野陸夫 / 同和行政論の再  
 構築 奥田均 / 教育基本法改悪の内容と私たちの向き合  
 いかた 森山沾一 / いじめ自殺と「美しい国づくり」  
 「権利を基盤とする学校」づくりこそ 平野裕二 / 2006  
 年の人権をめぐる国際動向 前川実  
 元気のもととはつながる仲間 24 異議あり！と言いつける  
 ことを 新しい出発の日に 外川正明  
 解放教育・バックナンバー (461号～472号)  
 解放教育 473 (解放教育研究所編, 2007.4) : 750円  
 特集 新しい学級集団づくりと学級通信  
 元気のもととはつながる仲間 25 大変な時代だから、大切  
 に生きたい つながる仲間からのメッセージ 外川正明  
 元気の出る学校！ 金川の教育実践と教育コミュニティ  
 志水宏吉  
 解放新聞 2299号 (解放新聞社刊, 2006.12.18) : 80円  
 今週の1冊 『昭和史探索 1』(半藤一利著)  
 解放新聞 2300号 (解放新聞社刊, 2006.12.25) : 80円  
 ニート・引きこもりの解決をめざす雑居福祉村 7  
 今週の1冊 『いまに問う 憲法九条と日本の臨戦体制』

## 事務局より

今年度も部落史連続講座を開催します。5頁でご案内していますように今回は仕事をテーマに各時代についてお話をさせていただきます。前半期は6月に3回開催し、後半期は11月から12月にかけて3回開催する予定になっています。日時等決まり次第、ホームページ・メールマガジンでお知らせいたしますので是非、ご参加ください。

所在地 〒603-8151 京都市北区小山下総町5-1 京都府部落解放センター 3階

TEL/FAX 075-415-1032

URL <http://www.asahi-net.or.jp/~qm8m-ndmt/>

開室日時 月曜日～金曜日 第2・4土曜日 10時～17時(祝日・年末年始は休みます)

交通機関 市営地下鉄烏丸線「鞍馬口」駅(京都駅より約10分)下車 北へ徒歩2分